

お精進のすすめ



鯨法会

鯨法会は春のくれ、
海に飛魚とれるころ。

浜のお寺で鳴る鐘が、
ゆれて水面をわたるとき、

村のりょうしが羽織着て、
浜のお寺へいそぐとき、

沖で鯨の子がひとり、
その鳴る鐘をききながら、

死んだとうさま、かあさまを、
こいし、こいしと泣いてます。

海のおもてを、鐘の音は、
海のごとまで、ひびくやら。

(金子みすず全集より)



「いっお精進をするのですが、」

私たちの先輩は次の日などにお精進をしてきました。

①毎月十六日の親鸞さまのご命日。

特に一月十六日の「おたんや」(祥月命日)

②通夜・葬式・年回法事などの仏事の日

③親などの月命日

健康のためにもいかがですが！



残さない心

—料理店主と若者の会話—

若「…おかげでうちまでした。」

主「ほほう、あなた若いのにエライねえ、ちゃんと合掌して食べるんだねえ。おまけに全部キレイに食べてくれて…。」

若「えっ、どうして?」

主「心をこめて作っても、最近の客ときたら残す人が多くてねえ。金さえ払えば何してもいいって思ってるんじゃないの?」

ちよっと前の新聞にも出てたけど、日本は食料の半分以上を輸入してるくせに、台所ゴミの四のパーセントは食べ残しなんだそうさ。」

若「うーん、もったいない。」

主「そうそう、そういえばこの間テレビを見てたら、タイのお坊さん達はサ

スガッてカンジだったネ。托鉢^{たくはつ}で信者から貰ったものは肉でも魚でも何でも残さずキレイに食べてしまっただから。」

若「えっ、でもお坊さんは肉や魚を食べちゃダメなんじゃないの?」

主「そう思うだろ。あなたの言う通り、精進して肉や魚を食べないことは、仏教徒にとっては「殺さないこと」で一番大切なことなんだそうさ。でも、いただいた物や出された物を何でも残さず食べることも、「いのちを殺さない」生かすことになるんだそうさ。」考えてみるとそうだな。残すと、もう一度殺すことになるんだよな。」

若「うーん、そう言われると…。」

主「フシは、いつも親に、残さず食べなさい、って□うるさく叱られて育ったんだが、今思うと、あの時大事なことを教えてくれてたんだなあって…。そう思ったらフシ、泣けて来ちゃって…。」

若「あーあ、泣いちゃった。」

